

科目名	地域公共政策の基礎			ナンバリング	RPP131	授業形態	講義
対象学年	2年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	菅野昌史	担当教員					

授業の概要	本講義では、公共政策に関する基本的な知識及び基礎的な理論を身につけるとともに、それらを具体的なケースに適用することを通じて、公共政策についての理解を深めることを目的とする。本講義は、基本的に座学形式で行うが、後半3回においてグループワークを実施する。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公共政策について基本的な知識及び基礎的な理論を説明できる。 2. 修得した知識を、具体的なケースに適用し、分析できる。 3. 他者と協働して主体的に課題に取り組むことができる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	<p><勉強方法>①授業で取り上げるテキストの該当箇所を目を通し、疑問点を明らかにする。②教員による説明、受講中に浮かんだ疑問、その疑問に関して調べた事項を配布した資料やノートに書き込む。③配布した資料やノートを元に、テキストを熟読する。</p> <p><事前に履修しておくことが望ましい科目>政治学入門</p> <p><履修する上で求められる知識>中学・高校で学んだ公民の知識、法律に関する基本的な知識</p>						
ディプロマポリシーとの関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公共政策に関する個々のキーワードについて説明できる 2. 公共政策の各段階における課題について説明できる。 3. 他の学生と協働して課題に取り組むことができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 公共政策に関するキーワードを、相互に関係づけながら説明できる。 2. 公共政策に関するキーワードを用いて、具体的な政策問題の解決について分析できる。 3. 他の学生と協働して主体的に課題に取り組むことができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○			○			30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加			○	○	○		10%
中間確認テスト	○	○			○		30%
グループ発表		○	○	○			20%

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業内で実施した小テストの解答や解説はmanab@にて配布する。 2. 授業内容に関する質問や要望への応答はmanab@にて配布する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	講義の目的と進め方について説明する。	
	第2回	なぜ公共政策学か	「公共政策」の定義、公共政策学誕生の経緯、公共政策学の特徴について説明する。	
	第3回	問題①	政策問題がいかに発見され、定義されるのか、「少子化対策」をモデルケースとして説明する。	
	第4回	問題②	「人口減少」とはどのような問題か、いくつかの「フレーミング」について説明する。	
	第5回	設計	政策問題の解決案が具体的にどのように設計されるのか、「中心市街地活性化政策」をモデルケースとして説明する。	
	第6回	決定	政策問題の解決案が担当府省において、どのように調整され、法案となり、国会で審議、決定されるのか、「一般用医薬品インターネット販売規制政策」をモデルケースとして説明する。	
	第7回	実施①	国会で決定された政策は具体的にどのような仕組みのもと、どのように実施されるのか、「生活保護政策」をモデルケースとして説明する。	
	第8回	実施②	中央と地方との関係について法的な側面を中心に説明する。	
	第9回	評価	政策がもたらした効果はどのような手法で評価されるのか、「学力向上政策」をモデルケースとして説明する。	
	第10回	公共政策をどのように改善するか	公共政策の改善について「inの知識」と「ofの知識」という二つの観点から説明する。	
	第11回	中間確認テスト	第1回から第10回までの理解度を問う確認試験を行う。	
	第12回	グループディスカッション①	課題についてグループで討議する。	
	第13回	グループディスカッション②	課題についてグループで発表する準備を行う。	
	第14回	グループ発表	課題についてグループで発表する。	
	第15回	最終まとめ	講義全体を総括するとともに、今後の学修上の課題について確認する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方	基本的に以下の順序で進める。最初に、前回の授業に関して出された質問や要望に対する応答、その後、講義を行い、最後に、その日の授業内容に関する小テストへの解答及びコメントの記入をしてもらう。			
授業外学習の指示	テキスト入手後は、できるだけ早くに全体に目を通しておくこと。その上で、授業の前にテキストの該当箇所を読み、疑問を持って授業に臨む。授業の後は、配布した資料を中心に講義の内容を復習する。不明点については、教科書やmanab@にアップされた応答を読む等して解消するように努める。さらに不明な場合には担当教員に積極的に質問する。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)			

教科書	秋吉貴雄(2017)『入門 公共政策学—社会問題を解決する「新しい知」』中公新書、800円 (ISBN-13: 978-4121024398)
参考書	授業の中で適宜指示する。
参考URLなど	授業の中で適宜指示する。
その他	レジュメの配布及び授業に関する連絡はmanab@を使用します。授業の前に必ずmanab@を閲覧・確認してください。